

実習日：平成 29 年度第 I 期 7 月 5 日
実習先：大分市医師会立アルメイダ病院
大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年
氏名：林 満里奈

実習では朝のカンファレンス（夜勤スタッフより日勤スタッフへの申し送り）、お見送り、院内見学、注射調剤、医療職カンファレンス、麻薬管理について、患者さんとのお話、服薬指導の練習を行い、院長の講義を受けました。

実習をさせて頂いて、緩和ケアという概念やイメージが変わりました。入院患者さんは一生を終える人ばかりではなく、元気になって治療を開始する人もおり、ただ死に向かうだけではないことを知りました。当院では患者さんだけでなく患者さんの家族のケアも行い、患者さんの意思を尊重して患者さんが快適に過ごせる環境が整っていました。ここは本当に病院？と思うくらいゆったりしている印象でした。ティータイムの際患者さんとどのように接したらいいか戸惑いましたが想像とは違い病気を患っている方とは思えないほど明るく、私も楽しくお話しすることが出来ました。医療従事者が痛みや心のケアをしっかりと行っているから患者さんは穏やかに生活を送ることが出来るのだと感じました。当たり前のことかもしれませんがカンファレンスを見学して患者さん一人一人のことを本当に考えているから患者さんの満足度が高いのだと思いました。亡くなった患者さんには看護師さんがお化粧品やマッサージをしているということで患者さんの顔を見た時、表情が穏やかでまるで眠っているような印象を受けました。遺族に対するケアもしていて、これが本当に患者さんやその家族に寄り添うということだと感じました。チームとして様々な職種が関わることで一人一人に最善のケアが行えているのだと思いました。

将来薬剤師として薬に関してだけでなく、患者さんの不安を取り除いてあげることが出来るような薬剤師になりたいと思います。がん患者さんが笑って過ごせるようにしてあげられる人になりたいと思いました。